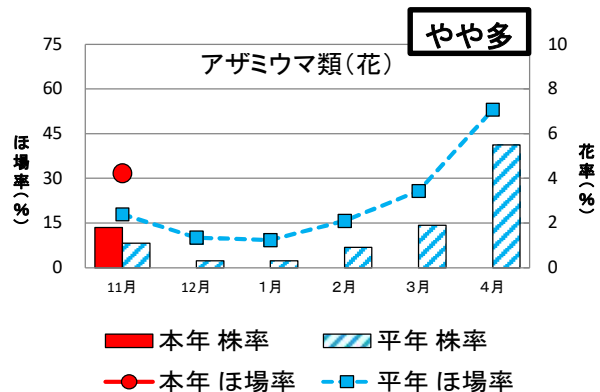
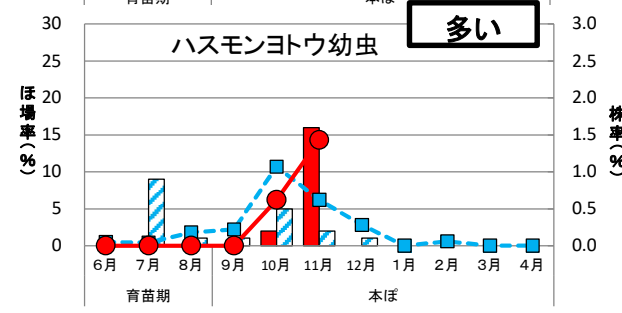
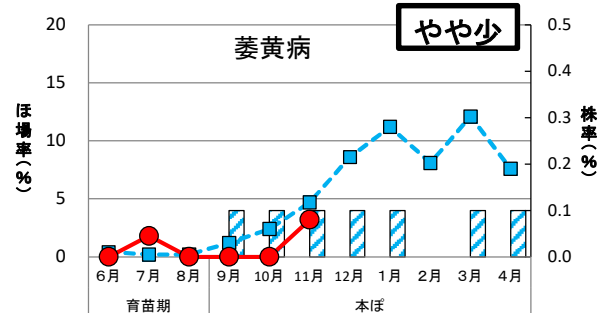
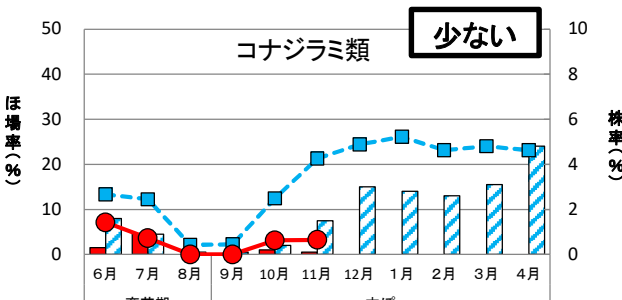
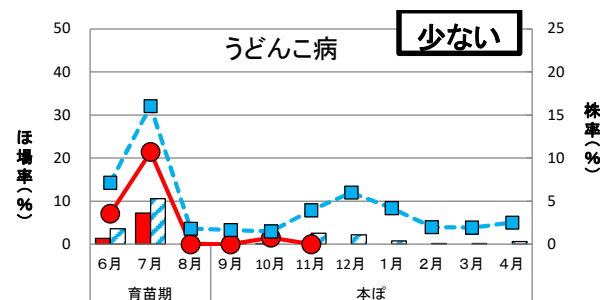
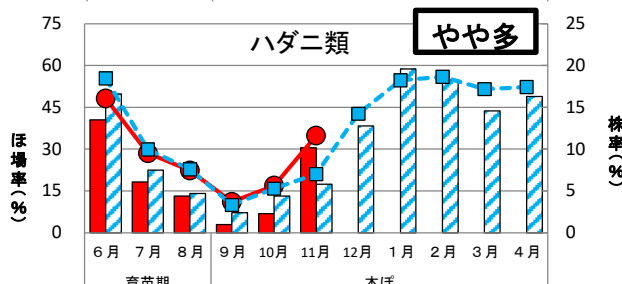
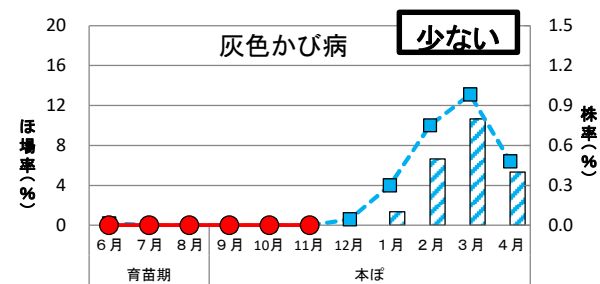
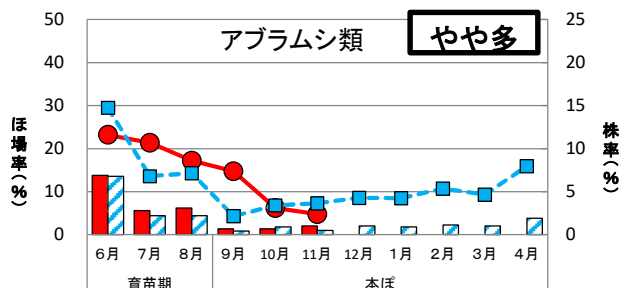
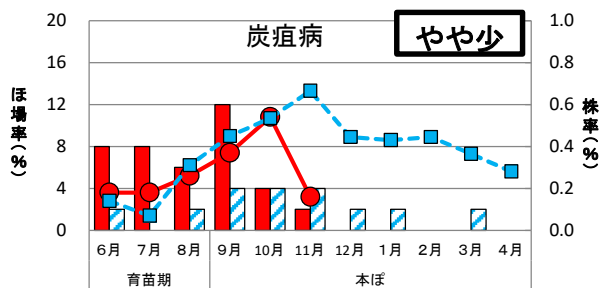


いちご病害虫情報第6号（11月）

令和6（2024）年11月22日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

■ 病害虫の発生状況 【総調査ほ場数：65 か所】



■ 本年 株率 ■ 平年 株率
● 本年 ほ場率 ● 平年 ほ場率

※ほ場あたり25株調査

※株率(%)：発生株数／調査ほ場数×25株

※ほ場率(%)：発生が確認されたほ場数／調査ほ場数

■ 今月の防除ポイント

ー ハダニ類の防除対策 ー

収穫が本格化する前に、早めの防除対策で被害を防止しましょう。

- 1 ほ場をこまめに観察し、早めに防除する。
- 2 薬剤感受性低下を防ぐため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- 3 天敵製剤や気門封鎖剤を活用する。天敵導入時にハダニ類が多いと失敗しやすいので、導入前に天敵に影響の小さい薬剤で

■ 今月のトピックス アザミウマ類

いちごに寄生するアザミウマ類

アザミウマ類は様々な作物に寄生する小さな昆虫で、いちご栽培においても重要な害虫となっています。県内いちご栽培ほ場における主要種はヒラズハナアザミウマ（写真1）で、ハナアザミウマ（写真2）やミカンキイロアザミウマ（写真3）も見られます。体長はいずれの種も1～2mmで、現場での種の識別は困難です。

アザミウマ類の発生を確認するには、ルーペでの観察の他、白い紙等の上で花を軽く叩く方法があります。アザミウマ類が発生していれば、花を叩くと紡錘形で褐色または淡黄色の小さな虫が紙の上に落ち、観察することができます。



写真1 ヒラズハナアザミウマ成虫



写真2 ハナアザミウマ成虫



写真3 ミカンキイロアザミウマ成虫

アザミウマ類の被害

アザミウマ類によるいちごでの主な被害は、花床の食害です（写真4）。成虫、幼虫が多数寄生すると、食害を受けた花は黒褐色に変色し、不稔になります（写真5）。果実が肥大した場合でも、幼虫が果皮を食害し、そう果（種に見える部分）の周囲を残して表面が褐変し、商品価値が低下します（写真6）。



写真4 寄生花
（赤円がアザミウマ成虫）

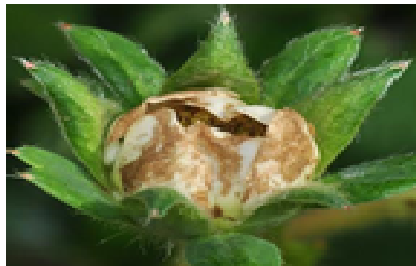


写真5 花の被害



写真6 果実の被害

アザミウマ類の防除

野外のアザミウマ類は10月頃まで活発に活動します。

施設周辺の雑草は、野外での増殖・発生源となるため、除草を徹底しましょう。

10月中旬までに開花が進んだほ場では、アザミウマ類の野外からの侵入が多くなる傾向にあります。

施設内で観察した花の1割以上にアザミウマ類が発見された場合、速やかな防除が必要です。

よくほ場を見回り、発生初期のうちに防除しましょう。

秋に被害が発生したハウスでは、2月頃からの被害発生に注意しましょう。

アザミウマ類をハウス内で維持してしまっている可能性があります。